

通訳ボランティアの活用と 療育効果について

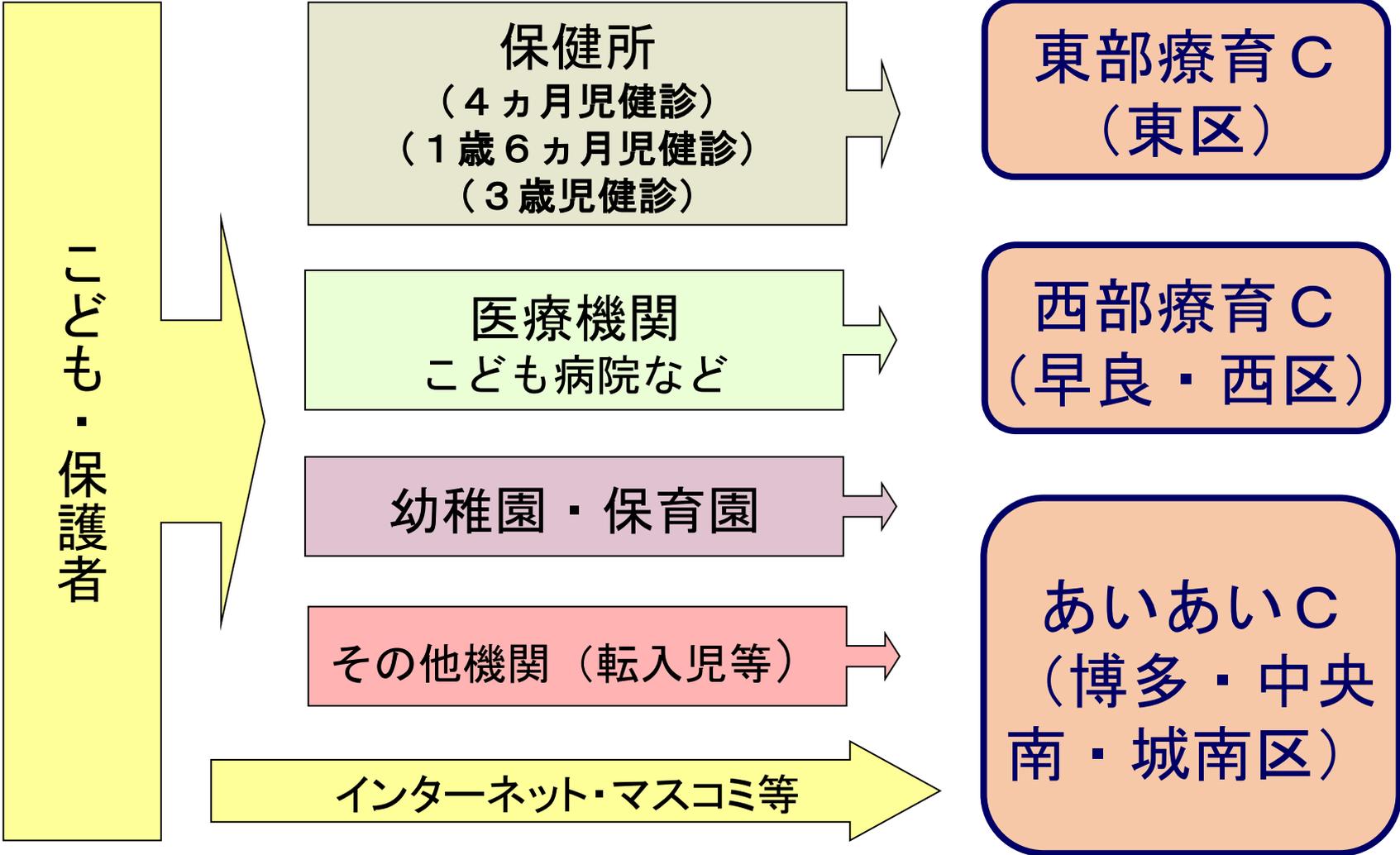
福岡市社会福祉事業団
福岡市立心身障がい福祉センター
(あいあいセンター)
療育第3係 大居 茂雄

内容

- ① あいあいセンターの機能について
- ② 事例紹介と当サポートセンター利用の実際
- ③ 感想・療育への効果

① あいあいセンターの機能について

福岡市の障がい児相談の経路



あいあいセンターの療育の形態（分園含む）

区分	内容	頻度	時間
通園療育 (児童発達支援センター)	単独通園： 児童だけで通所する	週5	5時間(10:00 ～15:00)
	親子通園： 児童と保護者で通所する	週1～週5	4時間(10:00 ～14:00)
分園 (児童発達支援事業所)	幼稚園・保育園との並行通園 を基本。 親子と単独通園あり	単独：週1 親子：月2	単独：4時間 親子：2時間
外来療育	親子で通所する グループ(多職種)と個別(訓 練士等)あり	月2回以下	1～2時間
経過観察	児童と保護者で通所する	必要な頻度	1時間程度

② 事例紹介と当サポートセンター利用の実際

通訳ボランティア利用の背景

☆利用対象者

当センターに親子通園された外国籍の親子

☆利用申込みの理由

親子通園するにあたり、日本語を話せない保護者に対して通訳（英語）ボランティアを活用し、療育への理解促進や育児の悩みに対応するため

☆利用回数

令和3年度…9回

令和4年度…11回

通園療育の日課（週2回の通園）

10:00	登園・自由活動	12:30	親子分離
10:30	朝の集まり・おやつ		子→自由活動
11:00	主活動		親→昼食・学習会参加など
11:40	給食	13:30	帰りの集まり・諸連絡
		14:00	降園



具体的な通訳の内容

- ① 契約の手続き
- ② 主活動（遊び）の目的、参加の方法
- ③ お子さんへの関わり方について
- ③ 学習会の内容
- ④ 他の保護者とコミュニケーションを図るための日常会話
- ⑤ 家庭での育児の相談、家庭状況の聞き取り
- ⑥ 進路についての相談
- ⑦ 書類の説明、記入方法について

③ 感想・療育への効果

☆保護者の通園意欲に大きくつながりました

- 「今から何をするのか」「なぜこの遊びをするのか」「保護者自身はどのように過ごすのか」等を丁寧に説明していただきました。保護者は、安心感を持って療育に参加することができました。また、お子さんにとって分かりやすい伝え方や、得意なこと、苦手なこと、大人が困ってしまう行動に対してどのように対応していくか、等について、担任が具体的に助言することができました。
- 担任も若干の英語は出来たのですが、細かな発達のニュアンスや、保護者を傷つけない伝え方は難しく、保護者との信頼関係を構築するにあたって、大変助かりました。また、通訳を通して保護者の価値観や育児への考え方を知ることができました。支援計画の立案や日々のコミュニケーションに大変参考となりました。
- 担任やクラスメイトの保護者と、療育以外の雑談ができることで、保護者も喜んでおられました。特に、サッカーワールドカップの話などは盛り上がっていたようです。

☆他の保護者と等しく情報提供ができました

- 福祉情報の英訳は専門用語などが多く、特に困っていました。通訳の方もよく分からない内容の場合は、担任に細かく確認をしてくださいました。そのことが、逆に私たちにとっても安心感につながりました。

☆保護者の思いや真意を知ることができました

- 通訳ボランティアを依頼するまでは、我々が身振り手振りで一方的に伝えるばかりで、保護者も受動的な姿勢となっていました。「OK」とは言ってくれるものの、それが真意とは思えないこともありました。通訳の方のおかげで、保護者さんからの“発信”が確実に増え、私たちも自信をもって支援にあたることができました。